

多彩な講座を様々なシリーズで年間約40回開催（1回のみ参加可）

# 大人が楽しむ科学教室2022

4月講座から申込方法が変わりました

## web申込

右の2次元バーコードまたは下記URLからアクセスし、講座詳細ページから申し込みフォームへお進みください。

<https://www.kagakukanq.com/otonagatanoshimu2022>



## 往復はがき

※1枚につき1講座1名のみのご応募となります

往信面裏側に応募講座名・申込者氏名（ふりがな）・住所・電話番号を記入の上、宛先までお送りください。

〒260-0013

千葉市中央区中央4-5-1 きぼーる7階

千葉市科学館

「大人が楽しむ科学教室」係

63 (返信)	往復はがき □□□□□□□□ 参加者氏名 返送先の住所	・応募講座名 ・申込者氏名（ふりがな） ・住所 ・電話番号	63 (往信)	往復はがき 26000013 千葉市科学館 「大人が楽しむ科学教室」係	千葉市中央区中央 4-5-1 きぼーる7階	※ここには何も記載しないでください
------------	--------------------------------------	--	------------	--	--------------------------	-------------------

※応募者多数の場合は抽選となります。web申込でご応募の方は当選者のみメールでお知らせします。

はがきでご応募の方は返信はがきでご確認下さい。

※同一講座に複数回お申込されても1回のお申込として扱います。(web・はがき共通)

※講座開始から終了までの全てに参加できる方を対象としています。遅刻した場合は入室できません。

**対象** 高校生以上(テーマに関心のある小中学生の参加可)

**料金** 常設展示入館料(大人510円/高校生300円/小・中学生100円)

**申込締切**

6月講座…5月6日(金) 必着

7月講座…6月6日(月) 必着

## 6月のプログラム

身近な科学シリーズ

### 顔の進化：ウマは馬面、ネコは丸顔、なぜ？



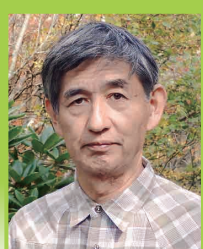
日時 2022年 6月4日(土) 13:30~15:00  
会場 10階 探究実験室 定員 25名

講師 馬場 悠男 (ばばひさお)  
国立科学博物館 名誉研究員

動物たちの顔には、それぞれ独自の生き方をするための工夫がいっぱいつまっています。そんな動物からみると、ヒトの顔はへんてこだ。しかし、私たちだって独自の進化をとげてきたのだ。自分の顔に誇りをもって生きていこう。ところで、あなたはウインクを上手にできますか？

千葉の自然シリーズ

### どんぐりが作る森



日時 2022年 6月25日(土) 13:30~15:00  
会場 10階 探究実験室 定員 25名

講師 原 正利 (はらまさとし)  
千葉県立中央博物館  
共同研究員(元生態・環境研究部長)

どんぐりはブナ科の植物が作る果実である。ブナ科の植物は北半球を中心に広汎な分布を持ち、様々な森林を形成している。昆虫や哺乳類、鳥類、菌類など様々な生物群と深い関係を結び、生態系の機能上も重要な植物群である。講演では、ブナ科の植物の多様性を紹介した後、様々な生きものとの関係、ブナ科の植物が作る様々な森について紹介します。

化学シリーズ

### 有機化合物の右と左を作り分けるキラルな光と結晶の化学：生命物質起源の解明の手がかり



日時 2022年 6月26日(日) 10:30~12:00  
会場 10階 探究実験室 定員 25名

講師 坂本 昌巳 (さかもとまさみ)  
千葉大学名誉教授

生物を構成するタンパク質やDNAなどの生体分子は、鏡像異性体の片方だけが利用されています(生体分子のホモキラリティー)が、なぜそのように片方だけに偏ったのかは明らかになっていません。私たちは、照射された物体に捻れを誘起させる力のあるキラル渦光が、結晶核の不斉を制御できることを発見しました。また、僅かな不斉の偏りを光学的に純粋な化合物へと不斉増幅する手法として、結晶化誘起動的光学分割法を利用して、生体分子のホモキラリティーの謎にせまります。

# 7月のプログラム

身近な科学シリーズ

## 犯罪捜査に地質学ができること



日時 2022年 **7月2日(土)** 14:30~16:00  
会場 10階 探究実験室 定員 25名

講師 **杉田 律子** (すぎた りつこ)  
科学警察研究所 附属鑑定所 所長

法地質学とは、事件や事故の解決に地質学の技術や知識を利用する地質学の応用分野の一つであり、法科学の一分野である。法地質学を含む法科学はシャーロック・ホームズが先駆者と言われる、今でもドラマや小説の方が先を行っているなど思うことがある。裁判員裁判が始まってすでに10年以上が経過し、市民の皆様も法科学に触れる機会があるかもしれない。そこで、地質学はどのように事件の捜査に利用されているのかを、古今の例を交えて紹介する。

千葉の自然シリーズ

## 地層の声を聴け! ~チバニアンから探る地球の歴史~



日時 2022年 **7月3日(日)** 13:30~15:00  
会場 10階 探究実験室 定員 25名

講師 **岡田 誠** (おかだ まこと)  
茨城大学 理学部長

地磁気逆転はどのように逆転したのか、氷河期はどのように始まるのかなど、全ては地層に刻まれた地球の「声」に耳を澄ませることで読み取ることができます。日本初の地質時代名称である「チバニアン」の提案では、地球に刻まれた声を読み解き、地球の歴史にせまるため様々な研究が展開されました。本講座でそれらの一端を一緒に見ていきましょう。

身近な科学シリーズ

## ダニと正しくつきあうために ~良いダニと悪いダニを通して学ぶ~



日時 2022年 **7月9日(土)** 13:30~15:00  
会場 10階 探究実験室 定員 25名

講師 **島野 智之** (しまの さとし)  
法政大学 国際文化学部国際文化学科 教授

日本に生息している学名のついたダニの種数は約2000種になる。人間の血を吸うダニで問題となるのは約20種。日本産のダニのうち種レベルでわずか1%。一方、人間に悪さをしないダニは全体の92%。9割のダニは人間とは関わりなく自由気ままに生きている。例えば、日本産トキと共生していたトキウモウダニは、羽の古い油やカビなどを食べてくれるなど、鳥にとって良い働きをしていた。しかし、我々の研究によって、トキウモウダニは日本産トキとともに絶滅したことが明らかになった。このようにダニという生き物の本当の姿をご紹介します。

千葉の自然シリーズ

## 房総の食慣行と生活文化 -海草こんにゃく、なめろう、ねぎを題材に-



日時 2022年 **7月10日(日)** 13:30~15:00  
会場 10階 探究実験室 定員 25名

講師 **和田 健** (わだ けん)  
千葉大学大学院国際学術研究院 国際教養学部 教授

食慣行は地域の生活文化として人びとの中で伝承され、またアレンジされたりします。房総半島の農産物海産物は種類が豊富であり、千葉県単位で地域性を単一的に括れない多様性のある食慣行と生活の関わりがみられます。今回は房総半島北東部銚子の海草こんにゃく、南房総のなめろう、千葉県北西部のねぎを題材に、食慣行と地域社会における民俗・生活の関わりを話します。



千葉市 科学フェスタ  
これからの私たち  
2022

**お問合せ** 千葉県千葉市中央区中央4-5-1 Qiball(きぼーる)内 7-10階  
TEL 043-308-0511(代表 9:00~19:00)  
<https://www.kagakukanQ.com>  
Twitter @Chiba\_kagakuQ Facebook @ChibaCityMuseumofScience

**アクセス** 電車=JR総武線千葉駅から徒歩15分/京成電鉄千葉中央駅から徒歩6分  
千葉都市モノレール=葭川公園駅から徒歩5分  
バス=千葉駅東口7番乗り場より中央三丁目下車徒歩1分

